

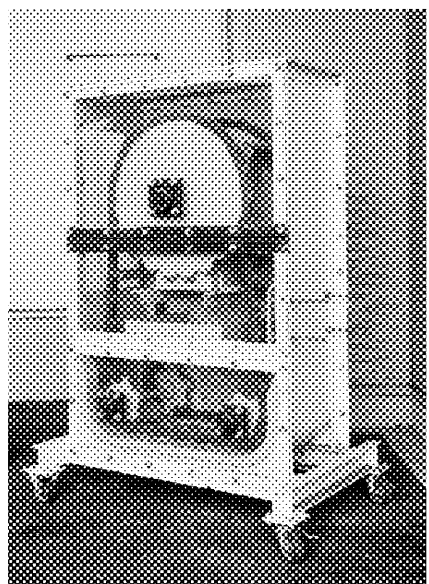
搬送機の付着物 自動回収

日本省力機械、後付け機器

日本省力機械（大阪府茨木市、辰村周平社長）は、コンベヤー周辺機器として搬送物の塊などの固着を防ぐハンマリング装置と、ケーシング底部に堆積した粉体などを回収するロータリー式回収装置の2機種を投入した。手作業を自動化し、現場の安全性向上を図れる。既存装置に後付けが可能だが、新設コンベヤーの高付加価値化アイテムとして拡販につなげ、現在4億5000万円の年間売上高を3—5年後に10億円以上に引き上げる。

ハンマリング装置は、ハンマーがコンベヤーに当たる部分のレールは迂回などで隙間を作り、ハンマーが当に落ちたときにコンベヤーをたたいて付着した塊や粉体などを落とせるようにした。

コンベヤーと異なる動力源は不要。従来は手作業で付着物を落としていたが、作業環境によっては落下事故などの危険性があつた。固着トラブルによる停止を防げ、チェーンやレールの長寿命化も図れる。価格は大きさによって異なるが100万円



▲コンベヤーを高付加価値化する周辺機器として投入したロータリー式回収装置

程度に抑える。

ロータリー式回収装置はバケット型スクレイパーがコンベヤーより下にあるケーシング底部から粉体を回収、コンベヤー上部に設けたシュートを通じてコンベヤーに戻す。従来ケーシングの清掃のためにコンベヤーを停止する必要があつたが、不要になる。

動力源は手動か、コンベヤーとは別のモーターを想定する。ハンマリング装置と同様にコンベヤーの動力源を使うことを検討する。価格は大きさにより数百万円規模。

コンベヤーの価格ではなく価値で競争力を高め、ゴミ処理場や鉱山関連などのプラント向けに売り込む。